

削リ(各府縣ノ廣告官報ニ登載アルモノハ)ノ十六字ヲ挿入
候條此旨相達候事

乙 第百七拾三號 三十一日 郡區 署

乙 第百七拾四號 四十一日 郡區

驛傳營業者ノ肉陸運請負業ノ者ヨリ驛傳取續所ニ差出ス
信認金可成該取續人ヨリ預金局預ケ又ハ驛遞貯金預ケ等
ニ致サセ候様豫テ取續人ニ指示スヘシ此旨相達候事

乙 第百七拾五號 四十一日 郡區

本年五月廿三日付乙第八拾五號達印紙類賣捌規程取扱手
續中左之通追加候條此旨相達候事

第六項中調製シノ下(檢印烙記ノ上)ノ六字ヲ加フ
第十五項中過不足ヲ生スルモノ、下(又ハ損傷汚染護膜

粘着等ニテ全ク使用シ得ヘカヲサルモノ)ノ二十六字ヲ
加フ

乙 第百七拾六號 四十一日 郡區

明治十七年乙第貳百三拾七號達文中買上代金ハノ下收
稅長ニ別途請求スヘシトテ(郡區長ヨリ別途下渡方稟
申付テ)改正候條此旨相達候事

乙 第百七拾七號 六十一日 郡區 町村

明治十四年乙第三拾七號達郡區長委任條件第十七條ヲ
刪除シ第二十二條第廿三條第廿六條第三十條左ノ通改正
追加候條此旨相達候事

第廿二條 養子願トアルヲ縁組願トス

第廿三條 云云

十八年

但廢嫡ニ屬スルモノハ此限ニアラス

第廿六條 中絶家ノ下エ又ハ廢家ノ四字ヲ挿入ス

第三十條 戶籍訂正願ノ事

但出生年月日及國民軍各自届以後徵否ニ關スル訂正

ハ此限ニアラス

乙第七拾八號十一月 郡區町村

明治十六年 月當廳乙第七拾貳號達衛生諸表中死亡者年

齡區別表今般内務省ヨリ左之通改定相成候條本月分ヨリ

右ニ照準調整シ當廳ニ差出スルニ此旨相達候事

但全達中甲號出產表、全結婚者初再緣年齡區別表、全結婚

者年齡對照表、全死亡者土地區別表、全死亡者職業區別表、

全坪數及戶口表、并ニ乙號出產調、全結婚調、全死亡調、全坪

數及戶口調、十表ハ自今廢止ス

海運年刊 第六十卷

第九

四六

乙第七拾九號 十一月 丹波郡 同町村 零

乙第八拾號 十一月 郡區

本年八月本府乙第百三拾壹號達諸印紙受拂計算表離形中
受拂之部通計之上ノ二割ヲ追加候條此旨相違候事

(受ノ部)

交	換	返	納
前月分	當月分	計	

(拂ノ部)

交	換	下	渡
前月分	當月分	計	

乙第百八拾壹號 十一月 山城各郡區全町村、略
乙第百八拾貳號 十一月 郡區町村
海軍武官結婚條例別紙之通被定候條此旨相違候事

別紙零之(請別紙)

十八年

乙第百八拾三號 十一月 郡區町村

恤窮規則 救助 受少亦棄兒養育料ヲ受クル者ニ
於身分其他ノ異動 本人死 去養子女 貴請疾病 全有之節ハ
其時々可届出筋ニ 候處 間々等 附付スル者有之不都合之
義ニ付爾來滿期ハ前月中其他異動ハ十日以内戸長ヨリ届
出ニ此旨相達候事

乙第百八拾四號 十一月 郡區

今般收稅事務整理 爲郡區役所常請檢査員トシテ漸次收

稅宿吏派遣 爲致候條諸事協議取計ニ此旨相達候事

乙第百八拾五號 十一月 沿海郡町村 備役場 署

乙第百八拾六號 十一月 郡區町村 署

乙第百八拾七號 十一月 郡區町村 署

明治十四年乙第三拾七號達郡區長ニ特任條件中左ノ通更
在候條此旨相達候事

第五拾貳條 府社以下并時院境内枯倒木伐採及栽培願

乙第百八拾八號 十一月 郡區

明治十六年 乙第百貳拾九號達船異動届ハ自今五拾
石積以此數目本形商船限リ小回船解漁船ハ每半期員數

ノ可届此旨更ニ相達候事

乙第百八拾九號 十一月 郡區町村

明治十四年乙第三拾七號達郡區長委任條件第百五條煙火
製造販賣ニ四字挿入候條此旨相達候事

乙第百九拾號 十一月 郡區

十八年

版權免許料收納明細簿并度量衡員數計算表來十九年度以降前分期分其年計月計日限後半期分翌年四月十日限可差出此旨相達候事
但十八年度後半期即十九年一月ヨリ三月マテノ分ハ四月十日限差出

乙第百九拾壹號 十二月 郡區 零
乙第百九拾貳號 十二月 郡區 町村 零
乙第百九拾三號 十二月 郡區 町村

明治十六年當廳示第三百拾三號同第三百拾五號達陸軍恩給令及海軍恩給令中左ノ通改正之儀達有之候條此旨相達候事

附送十四号(左記零之)

乙第百九拾四號 十二月 郡區 町村 略

乙第百九拾五號 十二月 郡區 零

乙第百九拾六號 十二月 郡區 町村

華族ノ靈養子女縁組離縁復籍及貫屬替轉居等ノ節送入籍ノ手續了了候ハ、其出張ヨリ郡區長ニ届出郡區長ヨリ直ニ宮内省華族局ニ通牒スル此旨相達候事

乙第百九拾七號 十二月 郡區 零

乙第百九拾八號 十二月 郡區

客年十二月乙第百四拾六號達來ル明治十九年一月ヨリ廢止候條此旨相達候事

乙第百九拾九號 十二月 郡區

陸運ニ係ル統計樣式別紙之通相定候條左ノ凡例ニ照シ取

調毎年三月廿八日限り可差出此旨相達候事

(別紙) 陸運統計材料凡例

- 一 第一第二第三第四第五表及第九表ハ明治十八年十二月三十一日ノ現在ヲ取調ヘ其以後ハ一ケ年中ニ増減變動ヲマタル事項ノミヲ取調ヘ毎年之ヲ報告スベシ
- 一 第六及第八表ハ十二月三十一日ノ現在ヲ取調ヘ第七表ハ一ケ年中ノ總數ヲ取調ヘ明治十八年分ヨリ毎年之ヲ報告スベシ
- 一 隧道 橋梁 渡津 ハ第一表ニ掲格ル驛路ニ在ルモノヲ取調
- 一 里程 間數等ヲ記スルハ里位ニ(里)町位ニ(町)間位ニ(間)ヲ施

- 一金員ヲ記スルハ厘位ニ止メ圓位ニ(〇)ヲ施スベシ
- 一 表中ニ記入スルキ員數ナキハ(一)ヲ以テ其欄ヲ填ムベシ
- 一 表中記入ノ事項ニシテ其註明ヲ要スルモノハ(※)ノ符印ヲ施シ其事由ヲ表末ノ欄外ニ詳記スベシ

第一 驛路里程		道名	國縣里道ノ別	驛名	驛間ノ里程	道幅	車輪通否
道	街	何	何	何	若干	若干	通
道	道	何	府	何	、	、	否
			縣	何	、	、	
			驛	何	、	、	

驛路ノ他府縣下ノ驛ノ中ノ驛ノ間ノ里程ニ關シテ其境界ニ驛アラザルモノハハイ印ノ如ク他府縣下ノ驛名ヲ掲グベシ。里程ノ未實測ニ經サルモノハ從來ノ取調ヲ記シ其肩ニ米印ヲ施スベシ。

第二 驛ノ所在		國	郡	驛名	戶數	府縣ノ距離
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何

十八年

第五 渡津

渡津名	驛名	川名	幅	水幅	渡船數	渡賃有無

二百一

第六 陸運營業者及用具

何年十二月三十一日調

驛名	營業稼業人	人力車	荷車	乘馬車	荷馬車	馬車用馬	荷牛車	車用牛	駄馬	駄牛	乘馬	駕籠	橋

營業者トハ人足牛馬車等ヲ備ヘテ運送荷物及旅客ノ用ニ供スル會社問屋ノ類ヲ云ヒ稼業人トハ人足渡守輓夫馭者馬丁牛馬口取駕籠昇等ノ如キモノヲ云フ

十八年

二百一

第九 隧道橋梁渡津通行錢定額

類別	名	稱	徒步	一八牛馬	一疋	何々	何々
津渡	何	渡					
梁橋	何	橋					
道隧	何	隧道					

乙第貳百號 十九日 郡區

菓子稅則第十一條製造稅ハ製造人ヨリ差出シテ賣上金高屆書ニ據リ其額ヲ定メ之ヲ徵收スヘシ此旨相達候事

乙第貳百壹號 十九日 郡區

但檢査員ヨリ送致セシ檢査報告書ヘモ照査スヘシ
明治十七年第九號公達ヲ以テ印紙類賣捌規程改定相成候處未タ巡査看守給助例實施セザル府縣於テ八年第三號公達ニ依リ扶助料ヲ受ケルハ巡査看守若シハ其遺族ニ限リ右規程第一條(遺族ハ孤兒ニ非ル)ニ依リ許可スルヲ得ヘシ爲

乙第貳百貳號 廿三日 郡區

學事年報取調條項并諸表樣式自今左ノ通相定候條曆年ノ

十八年

調査ニ據リ翌年三月限頃可差出此旨相達候事
但丙號各式ヨリ自今差出ニ不及義ト心得ヘシ
(別紙)

- 一 取調條項
- 一 部内學事ノ狀況ニ學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ概記スル
- 一 學區ノ區畫變更ノ理由廣狹適否ノ狀況等ヲ記載スル
- 一 學齡兒童就學ノ狀況及就學兒童増減ノ狀況方法等ヲ記載スル
- 一 難易其他學齡就學ニ係ル總括ノ狀況方法等ヲ記載スル
- 一 小學校(教場)公立學校新設廢止ノ理由諸般ノ準備生徒増減ノ狀況第壹號表ヲ要ス校長訓導ノ官等族籍月俸等

(第貳號表) 要ス其他父兄ノ職業ニ關シ在學ノ長短學業進否ノ趣ヲ異ニスル等第壹號乙丙表ヲ要ス(事項ヲ記載スヘシ)

- 一 中學校(高等女學校)公立學校新設廢止ノ理由教員ノ資格生徒ノ増減及學業ノ進歩等級人員卒業生等ノ區別可及的精密ヲ要ス(生徒卒業後ノ狀況等ヲ記載スヘシ)
- 一 專門學校 學校新設廢止ノ理由教授ノ要領教員ノ資格生徒ノ増減學業ノ進歩(前同)
- 一 其他該學藝ニ關スル教育ノ現狀ヲ觀察スルニ足ルノ條項ヲ記載スヘシ
- 一 各種學校 學校設置廢止ノ理由教授ノ要領教員ノ學力生徒ノ増減學業進歩ノ狀況等ヲ記載スヘシ

十八年

- 一 教科用圖書 教科用圖書ノ適否需用供給ノ關係等凡ソ
- 一 教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記載スヘシ
- 一 幼稚園 幼稚園ノ現況及學齡未滿幼兒ノ保育ニ係ル方
- 一 法狀況等ヲ記載スヘシ
- 一 書籍館及教育博物館 書籍館及教育博物館ノ現況并ニ
- 一 將來設置ノ方法其他閱覽人ノ増減等ヲ記載スヘシ
- 一 公學資 町村立學校經濟ノ要領収支ノ方法費金ノ豐歉
- 一 學校資財増減ノ緣由學資蓄積及授業料徴収ノ方法現況
- 一 等總テ學校維持并理財上ノ得失ニ係ル事項ヲ記載スヘシ
- 一 區町村會 教育費ニ係ル議事ノ梗概ヲ記載スヘシ
- 一 教育會 組織並議事ノ梗概及其成迹ヲ記載スヘシ

- 一 學事關係職員 學務擔任郡區吏戸長等其他學務關係職
 - 一 員事務ヲ措辨スル總ヲノ狀況及方法等ヲ記載スヘシ
 - 一 學事監督及獎勵 學務擔任郡區吏小學督業巡回督學ノ
 - 一 狀況並教員生徒等獎勵ノ要領ヲ記載スヘシ
 - 一 將來學事施設上須要ノ件 府知事ヨリ施設スルモノニ
 - 一 付須要ト期望スル件郡區ニ於テ施設上須要ト認ムル件
 - 一 及ヒ町村ニテ施設ヲ期望スル要件等各別詳記スヘシ
 - 一 其他學事ニ付申報スヘキ條件ハ便宜類聚記載スヘシ
- 第壹號 甲 公立小學校生徒各科卒業比較表

十八年	等級					
	一級	二級	三級	四級	五級	六級
十七年						
男						
						合計
						全科卒業

第貳號 公立學校職員表

職名	等級	籍	校				何圓	師範學校卒業計 有スル者	教員免許狀 有スル者	月給	支給人員
			十二等	十二等	十三等	十一等					
		華族									
		士族									
		平民									
		合計									

二百十四

職名	等級	籍	導					何圓	師範學校卒業計 有スル者	教員免許狀 有スル者	月給	支給人員
			十三等	十四等	十五等	十六等	十七等					
		華族										
		士族										
		平民										
		合計										

二百十五

十八年

第二種痘証書ハ第一號式ニ依リ付與シ(再三種ハ所持ノ種痘証書へ書式ノ如ク記入スヘシ)初種ニシテ不善感ノ者ハ善感ノ後証書ヲ付與スヘシ

但シ接種ナシタルキハ養生書ヲ付與スヘシ

第三種細則第六條ノ届ヲ受ケタルキハ式ニヨリ書替証書

ヲ付與シ届書ハ其書替月日等ヲ記入シ保存スベシ

第四種証書ヲ付與スルキハ証書式ニ準シ別ニ名簿ヲ製シ

置キ濟字ノ割印ヲカスヘシ

但シ書替條分ハ最前ノ名簿へ其事由ヲ概記シ置クベ

第五種痘証書養生書豫算ヲ以テ戸長役場へ請求スベ

シ

第六種解免ノキハ其種痘ニ係ル簿冊書類等一切戸長役場

ニ返付スヘシ

戸長役場取扱心得

第一種戸長ハ種痘醫公撰ノ事ヲ幹理シ欠員又ハ改撰ノ

際ハ豫メ撰舉ノ日ヲ定メ之レヲ部内ニ廣告スヘシ

第二種撰舉了リタルキハ當撰人ヲ查シ其履歷書ヲ徵シ郡

區役所ヲ經テ開申スヘシ

第三種種痘期節前ニ於テ戸籍簿ヲ点檢シ接種洩ナキ様注

意スヘシ

第四種種痘規則第六條及ヒ細則第八條ノ届ヲ受ケタルキ

ハ戸籍簿ニ第三號雛形ノ如ク朱印ヲナシ其年月日及善

感不善感ヲ記入シ証書ハ式ノ如ク檢印シ返付スヘシ

但シ細則第八條但書ノ届ヲ受ケタル片ハ其事由ヲ調
ヘ相當ノ猶豫ヲ與フヘシ

第五 送籍ヲナス片ハ種痘(初再三種)若クハ天然痘ノ濟否
ヲ記入スヘシ

第六 種痘ノ期日及ヒ場所ハ豫シメ種痘醫ト協議ノ上部
内ニ廣告ノ手續ヲナシ種痘ノ日ハ諸事幹理スヘシ

第七 種痘証書及養生書ハ豫算ヲ以テ當廳ヘ請求スヘシ

第八 痘漿ハ毎年四回新苗ヲ分付スヘキニ付種痘醫ト協
議ノ上痘漿玻璃細管員數ヲ定メ種痘期節一ケ月前郡區
役所ヲ經テ當府ヘ請求スヘシ

第九 但シ玻璃細管及遞送費ハ其都度當廳ヘ送納スヘシ
種痘醫解免ノ片ハ一切ノ書類等ヲ受取り之レヲ後

任ニ渡スヘシ

第十 每半年第二號式ノ如ク製表前半年分ハ七月十日迄
後半年分ハ翌年一月十日迄ニ郡區役所ヘ差出スヘシ

郡區役所取扱心得

第一 郡區長ハ戶長ヨリ種痘醫當撰人ヲ開申シタル片ハ
意見ヲ付シ進達スヘシ

第二 戶長ヨリ差出シタル種痘表ハ之レヲ取纏メ第二號
式ニヨリ一表ニ調製シ前半年分ハ七月廿日迄後半年分
ハ翌年一月廿日迄ニ進達スヘシ

第壹號 種痘証書式

用紙仙花四ツ規

種痘証

戶長檢印

十八年

二百廿一

十八年

種痘人員明細表

自明治 年 月 日
至明治 年 月 日

第二號書式

年月日	天然痘或八變痘	住 醫 所 姓 師 名 印	三種全上全上	全上
-----	---------	---------------------------------	--------	----

二百三十三

年月日	再種 左何類 右何類 或不善	或 不善	種痘醫 姓 名 印	京都府何郡區何町村何番戶	何某男女 姓	何年何月	全上
-----	-------------------------	---------	--------------------	--------------	-----------	------	----

二百三十二

區別	初							再三種以上	合計
	一年未滿	二年未滿	三年未滿	四年未滿	五年未滿	十年未滿	十五年未滿		
善感									
不善感									
計									

二百廿四

小計	未種痘人員				
	一年未滿	二年未滿	三年未滿	四年未滿	五年未滿

戸長ハ其町村内ノ總數ヲ掲ケ郡區長ハ其郡區内ノ總數ヲ掲シベシ
 未種痘人員ハ前半表ハ六月末ノ調査後半年表ハ十二月末ノ調査ニ依ル

第三號雛形

十八年

三百廿五

善感不善感假痘等ノ區別記入スベシ

宜適法寸

明治	年	月	初
三	再		

宜適法寸

明治	年	月	天
----	---	---	---

乙第貳百七號 十二月廿六日 郡區町村

明治十六年一月當府乙第貳號達自今廢止候條此旨相達候事

乙第貳百八號 十二月廿六日 郡區町村、小學校

明治十四年當府乙第廿四號ヲ以テ相達候學事表簿各式中
左ノ通改正候條此旨相達候事

(別紙)

甲號第八式 中本年十二ケ月中退學ノ欄左ノ通り改正ス

學中退	有他事故	本年	卒業
		十二月	三年課程
		退學	三年以上課程

全式卒業生徒ノ次へ左ノ一欄ヲ加フ

在籍生徒			
未卒三年課程		既卒三年課程	
女	男	女	男

乙號第三式就學不就學ノ二欄左ノ通り改正ス

十八年

第三條 患者幼少なるか又は大患よて自今容體を審に陳述し難き人は可成丈け常に其患者の傍に待して容體を熟知する人の附添ひ來る事を要す

第四條 已に診察を受けたる後養生法并に用藥法は追て醫員より審に示授するまで患者溜に退て其指圖を待つべし

但診斷書を得んと欲する人は其醫員に理由を述て之を乞ふべし

第五條 定則の診察料第三章及藥價第三章は取次人の案内を以て患者溜に出席したる藥局掛に拂ふべし

第六條 患者の病症に因り手術を要するものは醫員より其旨を諭し承知の上は示授したる時日に再來し必ず其

時刻を違背そべあらす

第七條 患者再來するとき又は藥を請ふときは初回到渡したる番號鑑札を持參そべし

第八條 患者の便宜に因り直に入院せんと欲するものは第二章の入院治療手續きに從ふべし

第九條 患者は午前六時より午前十時までに来院せし但急症大患又は無據事故あるものは何時にても来院苦しからす

第十條 院長或は當直醫の往診を請ふものは定則の往診料第三章を納むべし

第十一條 年中の休日は左の如し
歳首休業 一月一日ヨリ七日迄

十八年

孝明天皇祭	一月三十日
紀元節	二月廿一日
春季皇靈祭	
神武天皇祭	四月三日
秋季皇靈祭	
神嘗祭	十月十七日
天長節	十一月三日
新嘗祭	十一月二十三日
歳末休業	十二月廿六日より卅一日迄
毎日曜日	

右の外臨時の休暇は其時々揭示すべし
但休暇の日たりとも醫員常に在院するが故に急病大

患あるときは何時にても申來るべし

第貳章

入院患者治療を受ける手續き

第十二條 患者入院せんと欲するときは取次人を以て當日當直の醫員に申達し其指示を受くべし

第十三條 入院患者は上下京區及近郡村に住居する人を証人に立つべし然る上は第三章第一項の証書式に據り証書一通を認め庶務係に納むべし

但急病又は大患等にて急に入院を要するものは入院して後に之を納むるも妨げなし

第十四條 已に入院たる上は藥用養生法等總て醫員の指示に背くべからざるは勿論且附録の入院患者心得書の箇條を遵守すべし

十八年

第十五條 入院治療中たりとも何時にても退院勝手たるべし

第十六條 看病人は院内に備へおれば別に介抱人を召連るに及ばざれども自分の好に因て召連るとも妨なし但醫員の認可を経るにあらざれば一人より多かるべからず且宿泊中は患者より其食料を拂ふべし

第十七條 入院一周の終に於て遲滞なく定則の藥價章第三項入院料第三章を事務局に納むべし若遲滞するものは証人を督促する事あるべし
第十八條 退院せんと欲するものは退院する前に藥價及入院料を皆納すべし

第三章 諸定則

第一項 入院患者証人証書々式

用紙適宜壹錢印紙を貼用すべし

何府縣族籍何郡區何町村

何 某

年 某 齡

右入院致し候上は御院御規則固く爲相守可申は勿論本人に關する事件一切引受け可申候也

何郡區何組何町村何番戶

何 某 印

年 月 日

京都立療病院

御 中

第二項 診察料定則

管内患者は隨意たるべし

十八年

管外患者は初診金五拾錢其後診察五回毎に更に金五拾錢宛を納むべし

第三項 往診料

院長	管内	管外	當直醫	管内	管外
拾町以内 金五拾錢	壹里以上 迄 金三圓	拾町以内 金貳拾五錢	壹里以上 迄 金壹圓五	拾町以内 金貳拾五錢	壹里以上 迄 金壹圓五
拾町以上 壹里 迄 金七拾五	貳里以上 迄 金五圓	拾町以上 壹里 迄 金五拾錢	貳里以上 迄 金四圓五	拾町以上 壹里 迄 金五拾錢	貳里以上 迄 金四圓五
壹里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金五圓	壹里以上 迄 金壹圓	三里以上 迄 金四圓	壹里以上 迄 金壹圓	三里以上 迄 金四圓
貳里以上 迄 金三圓五	三里以上 迄 金五圓	貳里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五	貳里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五
三里以上 迄 金三圓五	三里以上 迄 金五圓	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五
三里以上 迄 金三圓五	三里以上 迄 金五圓	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五
三里以上 迄 金三圓五	三里以上 迄 金五圓	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五
三里以上 迄 金三圓五	三里以上 迄 金五圓	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五
三里以上 迄 金三圓五	三里以上 迄 金五圓	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五
三里以上 迄 金三圓五	三里以上 迄 金五圓	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五	三里以上 迄 金壹圓五	三里以上 迄 金四圓五

第四項 藥價定則

一 内用劑

- 一 水劑 一日分 金四錢
- 一 泡劑 一包 金壹錢
- 一 丸劑 一粒 金壹錢
- 一 散劑 一包 金壹錢

但規尼涅麝香は此限にわらず

一 外用劑

- 一 塗布劑 三十瓦 金拾錢
- 一 含嗽洗滌水 貳百瓦 金三錢
- 一 臨時外用藥 二瓦 金三錢

○皮下注射 ○灌腸 ○電機 ○吸入 ○坐薬 皆之に屬す

十八年

○膏藥

但絆瘡膏は方五寸金三錢

金八錢

一撒布劑

沃度ホル

十瓦

金四錢

一點眼水

ホモアトロ

一劑

金伍錢

一浴劑

一劑

金拾錢

但硫黃浴劑金四拾錢

○貴價藥品

一麝香

一規尼涅

一沃度ホルム

一ホモアトロピン

但臨時價を以てす

右の外治療用品費等は豫め一定せず其都度之を申達す

第五項 入院料定則

入院料を分て一等入院料二等入院料の二種とす一等入院料を納むるものは一患者に一室を給與す二等入院料を納むるものは數患者を一室に雜居せしむ其料は物價の低昂に應し些少の増減あるも凡左の如し

管内患者一等入院料一周間諸費

一凡金貳圓六拾錢

入院料

但藥價及治療品費は此外たり

管外患者一等入院料一周間諸費

一凡金三圓三拾六錢

入院料

但藥價及治療品費は此外たり

管内患者二等入院料一周間諸費

一凡金壹圓五拾四錢 入院料

但藥價及治療品費は此外たり

管外患者二等入院料一周間諸費

一凡金貳圓 入院料

但藥價及治療品費は此外たり

附録

入院患者心得箇條

第一條

入院きたる上は病氣の事は一切醫員に委任して
自分に過慮をべからず唯に虚心に醫員より示したる養
生法を守るが肝要なり

第二條

服藥は病人の守るべき最も大切なる一事なりさ
れば醫員より指示したる通りに時刻を違へず用ゆべし
藥の中には苦味又は不快なる臭あるものもあれば可成
丈辛抱して服用するは勿論なれども若し服し難くして
爲に嘔吐等を發するときは其儘捨て置きして看病人を
以て醫員に通知すべし

第三條

日々の食物は藥用に次ぐの大切なる一事なれば
病氣の模様お由て夫々醫員より膺方に指揮して進るも
れなれば病人の勝手な飲食を貪るべからず若し別に好
物あるば看病人を以て醫員に問ひ其指揮に任すべし

第四條

身体の運動静息の掛引きは治療の爲に緊要なる
事なれば醫員より常に指圖したる法に違かひ運動を又

十八年

は静息すべし

第五條 總して身体及身廻を清潔にする事病氣の爲に亦た肝要な故に看病人の不斷洗拭掃除するは勿論なれ共自分にて常に不潔ならざる様に注意すべし

第六條 若自分病氣の變りたるを覺へたれば醫員の廻診時刻の外たりとも直様看病人を以て當直は醫員に通知すべし

第七條 大便小便又は咯痰吐物等は治療向に要用なる事あるがゆへに醫員の指圖あらは授けたる器に貯うべし敢て濫に放棄すべからず

第八條 外出して運動し又は用事を辨せんと欲する者は醫員の許可を得べし且歸院の定刻を誤る勿れ

第九條 大聲を發し談話し或は新聞紙等を朗讀し又は室内を疾歩する等の患者の安靜睡眠を妨ぐる等の所爲は嚴に之を禁む

第十條 親族知音の見舞として來る者は必ず醫員の認可を経へし又數人一度に群集し騒々敷舉動あるべからず但飲食物を贈寄する者は醫員に問ひ差圖に任すべし

第十一條 患者相互に金銀を貸借し又は飲食を贈答する事を禁ず

第十二條 看病人若し看病を怠り或は不敬の仕向け之あるとき及び賄方より進むる飲食物の不潔不真なる事あれば直に醫員に通知すべし

第十三條 見舞人は院内に宿泊するを許さず

第十四條 醫員看病人等に贈物するを禁ず
示第貳拾號 廿四月

諸車運輸物之義管内ニ於テハ米穀ヲ專ラトシ從來相當之積度有之候處近來度外ノ重量ヲ積載シ爲メニ道路ヲ毀損シ行ハノ支障ヲ爲ス等ノモノ不少不都合ノ儀ニ付自今荷積馬車半車ハ壹輛ニ米穀拾俵以內其他人力ヲ以テ使用スル諸車同七俵以內ノ積度相定候旨滋賀縣ニテ通知有之候條此旨告示候事
示第貳拾壹號 廿四月
一 俳風秘用花月表らへ
一 冊

下京區第廿七組鍵屋町
出版人 藤野井庄七

右ハ明治十八年略頒曆類似ノモノニ付出版發賣差止候條此旨書籍營業者一般へ告示候事
示第三拾四號 二月六日

上京警察署所轄岩倉分署屬上加茂交番所ヲ今般鞍馬村小學校内へ移シ鞍馬交番所ト稱シ左記之通巡回區域更正ス此旨愛宕郡一般へ告示候事
鞍馬交番所巡回區域

- 鞍馬村 貴船村 二ノ瀬村 野中村
- 市原村 別所村 大布施村 八瀬村
- 原地新田 久多村 大見村 尾越村
- 百井村

岩倉分署巡回區域
十八年 二百四十七

一乘寺村 中 長谷村 花園村
 修學院村 高野村 高野河原 八瀬村
 幡枝村 大原村 岩倉村 靜原村
 小出石村 田中村 小山村 下鴨村
 鞍馬口村 松久崎村 雲ヶ畑村 止加茂村

示第三拾六號

二月九日

途上ニ於テ車馬行途ノ時ハ互ニ左方ニ避讓スヘキハ從來ノ習慣ニ有之候處軍隊并砲軍輜重車ニ行途ヲタル時限リ右方ニ避讓スヘシ此旨告示候事

示第三拾八號

二月十三日

德嶋縣下德嶋港小松嶋港及撫養港ニ出入候船舶(解漁船及小回船ハ除)ハ船長船頭又ハ代人ヨリ該港近傍之町村役所ニ左ノ項

々届出ヘシ此旨加佐郡與謝郡竹野郡熊野郡一般ニ告示候事

德島港

德嶋港トハ津田川別宮川口以内ヲ總稱シ名東郡西横町中通町堀裏町出來嶋町船場町西新町富田浦町佐古町福島町福島卿町助任町助任西町津田浦村安宅村沖ノ洲浦村南齊田浦村新濱村上助任村別宮川筋兩岸等ノ河岸皆之ニ屬ス

小松島港

小松嶋港トハ勝浦郡小松嶋浦村金磯新田村等ノ河岸皆之ニ屬ス

撫養港

十八年

撫養港トハ板野郡林崎村北濱村岡崎村堂浦村土佐泊浦村北泊浦村高嶋村黒崎村辨財天村等皆之ニ屬ス

届出ヘキ項目

- 一 蒸氣船ノ噸數并ニ積荷ノ品名個數代價
- 一 西洋形帆船ノ噸數并右ニ同
- 一 日本形船ノ何石積ノ數并右ニ同
- 一 荷物仕向ケ先及ヒ仕出ケ先

示第四十六號 廿一月

福岡縣下筑前國宗像郡地島村地島港波止修繕費爲消却本月十日ヨリ向三十年間入港ノ船舶ヨリ港費取立ノ義左記之通該縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事

- 一 漁船 一艘ニ付金五錢

- 一 日本形拾反帆以下船舶 帆一反ニ付金三錢五厘
 - 一 同十二反帆以上廿反帆以下船舶 帆一反ニ付金三錢
 - 一 同廿一反帆以上 帆一反ニ付金一錢五厘
 - 一 西洋形船舶 一噸ニ付金五厘
- 但碇泊五日ヲ過ルルハ更ニ本項ノ通五日毎ニ取立ルモ

示第五拾五號 三月六日

鳥取縣下左ノ各港出入ノ船舶(漁船小廻船)ハ其都度船長又ハ船頭ヨリ左記之件々其町村役場へ届出ヲ要スル旨該縣ヨリ通知有之候條此旨沿海地方へ告示候事

- 一 因幡國高草郡 加露港
- 一 伯耆國河村郡 橋津港

十八年

一同國八橋郡

赤崎港

一同國會兒郡

米子港

一同國同郡

境港

申出ノキ項目

一日本形ハ積石數

一西洋形ハ噸數

一積荷ノ品目及其數量代價

一荷物仕向々先及仕出シ元

一船舶定繫所及船長船頭ノ氏名

示第六拾六號 三月十九日

圖書出版之義ハ出版條例第一條但書社則塾則引札之類ヲ除クノ外發賣セサルモノト雖モ總テ右第一條ヲ準據シテ

可届出儀ト可心得此旨告示候事

示第六拾九號 三月三十日

兵庫縣下淡路國津名郡草香村明神港修繕費支消之爲メ去ル十五年以降二十五年間入港船舶ヨリ港錢取立之儀廿五年九月當府示第五拾四號ヲ以テ告示置候處右二十五年ハアルホトク其徵錢方法左之通更訂候旨同縣ヨリ照會有之候條此旨告示候事

一五反帆以上諸船舶帆壹反ニ付テ金壹錢シ

但帆ハ兩端ヲ除去シ算定セ

一五反帆以下ノ諸船壹艘ニ付テ金貳錢

示第八拾貳號 四月十五日

參謀本部測量局ニ於テ追々全國ニ三角測量網ヲ擴張セ

十八年

三角点ノ位置ヲ確定シ永久ニ保存スル爲メ標石建設可相
成ニ付テ右標石建設ノ節直ニ出張官吏ヨリ該地主ニ協
議可相成ニ付差支無之様可致尤モ標石之義ハ經緯度ニ應
スル地表面ノ位置并其地ノ高低確定スル測量上最重要ノ
点ニ有之候條建設以上ノ篤ク保存方法注意可致此旨告示候
事

示第八拾八號 四月十八日

明治十七年六月拾九號公布ニ基キ商標登錄ヲ願出ツルモ
ノ其手数料ハ以來國庫金取扱所ニ預ケ其預切符ヲ以所
轄郡區役所ニ納ムル事
右告示候事 (本年乙第五十三号參看)
示第百號 五月五日

根室縣下ニ於テハ除租地處有之者除租滿期ノモノハ明治
十二年十二月乙第二十五號舊開拓使布達第九條ニ依リ除
租滿期ノ年六月三十日迄ニ申出ルモ其等ノ處往々期日ヲ誤
リ申出ルモノモ有之候趣該縣ヨリ照會有之候條右關係
者ハ心得違無之様注意可致此旨告示候事
示第百四號 五月十一日

高知縣下土佐國安藝郡甲浦港ニ人民自費ヲ以燈臺築造ニ
付該費消却ノ爲メ入港ノ船舶ハ本年五月一日ヨリ來ル明
治廿八年六月三十日迄ハ左記ノ通全年七月以後ハ永年右
半額帆別錢取立候旨全縣ヨリ通知越候條此旨告示候事
取立方法

一日本形船四反帆以下

壹艘

金四錢

二百五十五

十八年

但日數三日以上滯港ノ釣溜漁船ニ限リ四月目ヨリ金
貳錢ヲ減ス

一同五反ヨリ拾五反帆迄、每壹反ニ付其同貳錢増事

一同拾六反帆以上、每壹反ニ付其同三錢増事

但甲浦港内定繫泊漁船此例コラス

一西洋形船舶一噸ニ付、同三錢宛事

示 第百拾四號 五月二十日

秋田縣下南秋田郡戸賀港へ人民私費ヲ以テ燈臺建築候ニ
付該費支消ノ爲本年四月一日ヨリ左之通入港之船舶
港錢取立候旨同縣ヨリ通知有之候條此旨告示候事
一 港錢取立額 金壹錢五厘

一日本形積石五十石以上者帆一反ニ付金 貳錢

一同五十石以下壹艘ニ付 金拾錢

示 第百拾七號 五月廿八日

從來官有貸下地ノ義本年ヨリ更ニ五ヶ年ヲ一期トシ可貸
渡候條來ル十一月三十一日迄ニ別紙書式ニ照準最前ノ指
令及貸地之証相添更ニ可願出若シ右日限迄ニ不願出
ハ何等ノ明文アル指令又ハ貸地証所持スルモ一切無効
ノモノトス尤モ繼年季ヲ願フモノハ滿季ノ年(假令ハ
明治十四年一月ヲ云フ)ニ願出ヘキ旨根室縣照會有之
候條此旨告示候事

(別紙)

(備考) 一用紙美濃白紙 一貸地之証未ク申請サルモノハ(貸地之証)ノ四字ヲ除ク

十八年

借地願

何國何郡何町何丁目何番地何々
一海産干場反別(地坪) 壹ヶ所

右明治何年月日借地御許可ノ處今般申第拾貳號御布達ニ
付更ニ本年ヨリ五ヶ年間成規ノ賃地料ヲ以テ御貸渡被成
下度就テハ借地中願人不在若クハ事故アルハ總テ保証
人引受ケ可仕候因テ別紙指令并ニ賃地ノ証相添保証人連
印ヲ以テ此段奉願候也

何縣華土族平民

何國何郡何町何丁目 何番地在籍(付籍又ハ戶主ニアラサルモ)

當時何國何郡何町何丁目 番地(誰方)寄留

年 月 日 願 人 何之誰印

根室縣華土族平民

何國何郡何町何丁目 番地在籍

保証人 何之誰印

肩書全上

保証人 何之誰印

縣令宛

與書

年 月 日

戶長(戶長ナキ
地ハ郡長)

借地繼年季願

(地名地目反別其他借地願書式ニ全シ)

右明治何年月日何第何處ヲ以テ許可御指令ノ處本年滿期
ニ付來ル明治何年ヨリ向フ五ヶ年間更ニ借地御許可被成
十八年

下度就テハ借地中願人不在若シテ事故アルハ總テ保証人引受可仕候因テ別紙貸地証返納此段奉願候也
(以下借地願書式ニ全ク)

示第百貳拾號 五月三十日

當府廳建設竣功ニ付來ル六月五日左ノ處ニ移轉候條此旨告示候事

位置 京都上京區第廿組殿ノ町八十五番地ノ二
示第百貳拾五號 六月十五日

本年第七號公布專賣特許條例ニ基キ免許ヲ願出ツル時ハ同條例第十七條ノ免許料ハ國庫金取扱所ニ預ケ其預リ切符ヲ以所轄郡區役所ニ納メ領收証寫ヲ添テ別紙書式ニ做ヒ當廳ニ差出スルニ此旨告示候事

(書式) 本年乙第拾九拾六號參看

上 申

一何專賣特許願

右條例ニ基別紙出願仕候ニ付免許料ハ別紙預証寫ノ通所轄(郡)區役所ニ相納候條願書御進被下度此段上申候也

住所族籍

年 月 日 何 某

京都府知事宛

示第百三拾壹號 六月廿三日

明治十七年第九號公布商標條例ニ基キ登錄商標見本衆庶ノ觀覽ニ供スル爲メ左ノ郡區役所ヲ以觀覽所ト相定候

十八年

條便宜參觀スヘシ此旨告示候事

- 一 上京區役所 京都
- 一 下京區役所 京都
- 一 紀伊郡役所 山城國紀伊郡伏見
- 一 相樂郡役所 同 相樂郡木津
- 一 南桑田郡役所 丹波國南桑田郡龜岡
- 一 天田郡役所 同 天田郡福知山
- 一 與謝郡役所 丹後國與謝郡宮津
- 一 加佐郡役所 同 加佐郡舞鶴
- 一 中 郡役所 同 中 郡峯山

示 第三百三拾貳號 廿六日

宮津警察署所轄日置分署ヲ岩ヶ鼻村へ來ル七月一日ヨリ

移轉シ岩ヶ鼻分署ト改稱致シ日置分署屬須川交番所全日ヨリ相廢シ日置分署須川交番所巡回區域ヲ岩ヶ鼻分署ニテ受持候條此旨告示候事

示 第三百三拾九號 廿六日

明治十七年第三拾號公布西洋形船舶検査規則ニ據リ検査ヲ受クヘキモノ其出願手續及其要領等左ノ通心得テヘシ此旨告示候事

(別紙)

- 一 検査ヲ受クヘキ船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ左ノ書式ニ照シ検査所又ハ當廳ニ出願スヘシ
- 一 検査規則第三條ニ據リ検査ヲ受ケタル船舶ハ臨時検査ヲ除クノ外最前ノ検査所へ次回ノ検査ヲ願出スヘシ

十八年

- 一 修繕若クハ改造ヲ命シ其工事中必要ト思惟スルモ其檢査員之ヲ監督スルコトアルベシ又船主ノ都合ニ據リ船體機關等ヲ新造又ハ修繕スルニ方リ臨檢ヲ請フモノアルモ檢査員ノ都合ニ依リ許可スルコトモアルベシ
- 一 臨時定時ニ拘ハラヌ檢査ニ於テ運航ヲ差止メ修繕等ヲ命シタルモ其ハ本船現有ノ檢査証書ヲ引上クヘシ
- 一 檢査ノ爲メ使用スルキ物ニテ本船若クハ工場等備ヘタルモノハ便宜檢査員ヨリ其主務者ニ談合シ之ヲ使用スルコトアルベシ

書式

帆船何丸第何回何檢査願フヨリ
 一本船々主氏名若クハ會社名ヨリ檢査員ニ送付スル書式

一定擊場

航路

一 登簿噸數

一 公稱馬力

一 前期檢査ノ場所

一 前期檢査證書有効期限何年何月何日ヨリ何年何月何日迄

一 前回滾鑑水壓試驗年月日

右記帆船當時何港從船若クハ入渠中ニテ御檢査被減下度此段奉願上候也
 船主若クハ船長 氏 名 印

何々檢査所 宛

十八年

又ハ地方廳

二百六十六

示第四百四拾七號 七月三十日

本年一月當廳示第拾三號ヲ以テ及告示置候府立療病院治療
 條則第三章諸定則中左之通改正追加候條此旨告示候事
 第三項本項ノ末ニ追加
 急行往診料

院		長		醫		員	
管	內	管	外	管	內	管	外
里	金員	里	金員	里	金員	里	金員
程	程	程	程	程	程	程	程
自貳拾里	壹圓	自貳拾里	四圓	自貳拾里	七拾錢	自貳拾里	參圓
至壹里	貳圓	至貳里	六圓	至壹里	壹圓	至貳里	參圓
至貳里	貳圓	至貳里	六圓	至貳里	壹圓	至貳里	參圓

自貳里	四圓	自貳里	參圓
至三里	壹圓	至三里	五拾錢
每壹里	拾五錢	每壹里	壹圓

第五項中管內患者一等入院料云々以下刪除更ニ左之通改正

入院料一日諸費

一等入院料		二等入院料	
管內患者	管外患者	管內患者	管外患者
金五拾錢	金六拾五錢	金三拾五錢	金四拾五錢

右ノ外特ニ榮養品及療用品ヲ要スルハ別途其實費ヲ徴
 取スルコアルベシ

十八年

二百六十七

第六項ノ一項更ニ追加

二百六十八

大 手 術	金 員	小 手 術	金 員
一 等	壹 圓	一 等	貳 拾 錢
二 等	七 拾 錢	二 等	拾 錢
三 等	五 拾 錢	三 等	三 錢

右ノ外特ニ治療品ヲ要スルモノハ別途其實費ヲ徴收スル
コナルヘシ

示 第四百四拾八號 七月三十日

滋賀縣ニ於テ別紙之通諸荷車之議ニ付及布達候旨通知有

之候條此旨告示候事

(別紙)車ニ乗リテ道路ヲ通行スルモノハ道路ヲ毀損スルハ本支ノ
甲第八拾六號ノ旨ニ依リテ道路ヲ毀損スルハ本支ノ
諸荷車ノ内從來製作ノ不良ニ由リテ道路ヲ毀損スルハ本支ノ
ノ通行ニ障礙ヲ與フル不勘モノ有之ニ付左ノ通相定メ來
ル公月一日ヨリ實施候條此旨布達候事

滋賀縣令中井弘代理
明治十八年七月一日 滋賀縣大書記官河田景福

第拾一號

荷車坂路ヲ下リテ用ニ供セシ後尾ニ摺木計唱フ
ルモノヲ付着シ或ハ故ニ荷臺木ヲ延シ之ノカ摺木ノ代リ
キ爲スモノ、如キ自ラ道路ヲ毀損スルヲ以テ禁止候條
十八年

二百六十九

更三荷臺木ハ長壹丈以内正シ後尾ヲ横木ハ丸木ヲ以テ荷
臺木ノ下部ニ附着スルニシテ
但石或ハ薪炭等運搬ノ爲メ山谷中ニ於テ運轉使用スル
車ハ此限ニ非ス

第廿二條

從來俗ニハ車ト稱スル荷積牛車(曳綱ヲ牛ニ繫キ運轉)ハ
滋賀郡大津市街及七同郡別所村神出村藤尾村東浦村松本
村ニ於テ使用禁止ス

但明治十五年本縣甲第三號布達道路取締規則第一條第
五項ニ係ル重量ノ木石等ヲ運搬スル場合ニ在テ本文ノ
牛車ヲ要スル時ハ所管警察署ノ認可ヲ經テ特ニ使用ス
ルヲ去得ル

示第百六拾五號

八月廿六日

鳥取縣士族

近藤猪之吉

十六年十一月

右之者鳥取縣公立鳥取病院附屬醫學校入學中犯罪有之退
學セシメラレ候ニ付自今管下公立私立ノ學校へ入學禁止
候條此旨告示候事

示第百七拾壹號

九月三日

明治十四年第五號達ヲ廢止シ集産場ハ本月三日ヨリ閉場
候條此旨告示候事

示第百七拾貳號

九月七日

上下京區内ニ出火有之候節上下京警察署及分署ニ於テ左

十八年

ノ區別ニ依リ撞鐘セシメ候條爲心得此旨區部ニ般ニ告示
 候事
 一 警察署又分署所在ノ組内又ハ組境ヨリ凡五町以内ニ
 出火アリテ知事若クハ其近傍ナルキ又ハ大火延焼ト見
 認テ其時各組ノ撞鐘ト同シク半鐘ヲ早急ニ撞クヘシ
 尤モ消防人集合期ヲ測ル撞鐘ト止ム候時ハ人等集上
 警察署又ハ分署所在ノ組境界ヨリ凡五町以外ニ其
 署所轄境界ヨリ外ヘ凡五町以内ト見認メタル時ハ三ツ
 切早急ニ撞鐘スヘシ尤モ所轄内住居ノ差ク火事ナルノ
 信號ヲ知ルヲ測リ撞鐘ヲ止ム候時ハ
 三 警察署直轄又ハ分署所轄境界ヨリ凡五町以外ト見認メ

各組撞鐘ト全クニ切撞鐘スヘシ尤モ其部内
 ノモ火事タルノ信号ヲ知ルヲ測リ撞鐘ヲ止ムヘシ
 四 総テ鎮火ト見認メタルキ各組撞鐘ト全クニ切
 度撞鐘スヘシ

示第百八拾號 九月十九日

上京警察署所轄橋本分署属二條派出所ヲ上京區第廿七組
 御池通西洞院辻ヘ移轉シ西洞院派出所ト改稱候條此旨上
 京區中ニ告示候事

示第百八拾三號 九月十八日

下京警察署所轄鹽小路分署油小路派出所ヲ下京區第拾七
 組五條通東中筋東北角ヘ移轉シ東中筋派出所ト改稱候條
 此旨下京區中ニ告示候事

十八年

示第百八拾八號 十月一日

二百七十四

本年七月 第百四拾七號ヲ以テ府立療病院治療條則中改正
追加之儀及告示置候處入院料一日諸費ノ項ニ更ニ左ノ通
追加候條此旨告示候事

三等入院料

管內患者	管外患者
金貳拾五錢	金三拾錢

示第百八拾九號 十月二日

明治十年十月當府示第百九拾號同十一年八月示第百
二十一號達并全十五年九月示第五十號ヲ以テ及告示置候青
森縣津輕郡青森竿燈建築償却費取立之儀ハ尙本年十月

一日ヨリ來ル二十五年十月三十一日迄向フ七ケ年間繼續
取立及金竿燈稅之義モ全シ向フ七ケ年限、從前之方法
ニ依リ徵稅候旨全縣ニ、通知有之候條此旨告示候事
示第百九拾壹號 十月七日

船井郡木崎臨時交番所ヲ廢シ與謝郡波路村ニ設置シ波路
臨時交番所ト相稱候條此旨船井及與謝郡一般ニ告示候
事
第百九拾六號 十月十三日

不真ノ子弟ヲ懲戒シ爲メ懲治場ニ入レシムトテ請フモノ
ハ左ノ出願手續ニ照依シ郡區役所ヲ經由シ當廳ニ願出
此旨告示候事

(別紙)

十八年

二百七十五

懲治場入出願手續

第一條 子弟不肖ヲ懲治場ニ入レシムルヲ請フモノハ其事由ヲ詳記シ父母或ハ父母ヲ養ヒテモツル其他ノ尊屬親母祖父母等願主トシテ願主ニ最近ノ親族ニ名ヲ連署シ以テ願出スルベシ

但父母ニ最近ノ親族又ハ其他ノ親族トモ二名ナキモ或ハ或ハ連署者ヲ内死去又ハ故障アル并ハ他ノ尊屬親或ハ親族ノモツ之ニ代ルルヲ得ルベシ

第二條 入場期限内若シ出場セシムルヲ請フモ或ハ總テ入場ヲ請フノ手續ニ從フヘシ入場ノ時ノ願主若クハ連署者ヲ内死去又ハ故障アル并ハ他ノ尊屬親或ハ親族ノモツ之ニ代ルルヲ得ルベシ但父母ノ病死等不得止ノ事故アリテ日數ヲ限リ時

出場セシムルヲ請フモノモ總テ本條ニ準スヘシ
第三條 懲治場ニ入ルモノハ年齢ニ滿八歳以上滿二十歳以下ヲ限リトス

第四條 懲治場ニ入ルモノハ六ヶ月ヲ以テ一期トシ滿一期ニ至レハ更ニ願主ヲシテ得又一旦出場シテ再モ入場スルモノモ通シテ二年ヲ過ルルヲ得ス但本條ノ願主第一條ノ手續ニ從フヘシ

第五條 入場中ノ衣食費ハ其願主ヨリ上納スヘシ若シ願主又ハ親族ノモツ貧窮ニシテ上納シ難キモノハ其事由ヲ具シ戸長ヲ添書シ以テ願出ヘシ但本條ノ費用ハ一月又ハ二期分子弟ノ入場セシ監

十八年

獄本支署へ前納スル毎月過不足精算ヲ示ス

第六條 懲治者ノ行狀試又ハ病氣療養ノ爲メ一時歸宅セ

ルコトヲ請フモノハ其日數ヲ限リ願主ヨリ懲治者在場ノ

監獄本支署ヨリ願出其許可ヲ受クヘシ

但入場ノ時ノ願主死亡セシトハ第貳條ニ準スヘシ

示第九拾七號 十月十六日

租稅檢査上便宜ノ爲メ今般管内ヲ五部ニ區畫シ之レテ租

稅檢査區ト爲メ各區ニ檢査員派出所ヲ常置シ其區域并派

出所位置左ノ通相定候條此旨告示候事

第一區

山城國 上京 下京 葛野 愛宕ノ二區二郡トシ其

派出所ヲ京都府廳内ニ置ク

第二區

山城國 乙訓 紀伊 宇治 久世 綴喜 相樂ノ六

郡トシ其派出所ヲ伏見表町ニ置ク

第三區

丹波國 南北 桑田 船井ヲ三郡トシ其派出所ヲ船井

郡園部本町ニ置ク

第四區

丹波國 天田 何鹿ノ二郡 丹後國 加佐郡トス其

派出所ヲ天田郡福知山下新町ニ置ク

第五區

丹後國 與謝郡 中 竹野 熊野ヲ四郡トシ其派出所

ヲ與謝郡宮津宮本町ニ置ク

十八年

示第貳百貳拾五號 十二月

三百八十一

自今著譯圖書出版板權願令都テ艸稿相添可差出此旨其
下京區一般ニ告示候事

但政治法律風俗ニ關スルモノニ出版届ト雖モ本文ノ通
心得ベシ

示第貳百三拾八號 十二月十七日

昨十七年示第三百八拾七號告示中學校師範學校教員免許
規程中左ノ通改正相成候條此旨告示候事
一 中學校師範學校教員免許規程第一條中(中學師範學科若
クハ大學科卒業證書ヲ有セズ)ノ貳拾三字削除
一同第三條但書第三項某學科云云ノ上ニ某學位記若クハ
ノ七字增加

一同第五條削除

一同(第六條)ヲ(第五條)トシ以下順次繰上ク

示第貳百四拾壹號 十二月廿一日

一 增三才精義 編輯兼 柴田治三郎
出板人 京都府平民

明治十八年十月六日出板届
全 年十二月一日發賣差止 下京第廿七組下堀詰町
二拾二番戶ノ内二号

一 每朝神拜記 小本一冊 編輯兼 木村榮治郎
出板人 京都府平民

明治十八年十月五日出板届
全 年十二月十日發賣差止 上京區第廿六組姉猪熊町
十六番戶

一 卽席獨八卦 編輯兼 京都府平民
出板人 吉村治三郎

十八年

二百八十一

明治十八年十月十三日出板屆
全 年十二月十日發賣差止

二百八十二
下京區第廿一組北御門町
十五番戶内二号

一陸運用書

編輯兼
出板人

京都府平民

後 藤 重 助

明治十八年十月三十一日出板屆
全 年十二月十一日發賣差止

下京區第六組下大坂町
十五番戶

右書籍ハ發賣被差止候條此旨上下京區書籍營業者へ告示
候事
示第貳百四拾四號 廿四日

京都府平民

山 口 市 太 郎

一明治十九年太陽曆扇面摺 壹枚
明治十八年十一月廿六日出板屆

下京區第拾九組杉屋町
廿四番戶

右明治十八年十二月二十一日出板發賣被差止候條此旨上
下京區書籍營業者へ告示候事

十八年

二百八十三

下卷
八月十二日
...

下卷

- 十五丁 三行目 行施ハ行旅ノ誤
- 十六丁 六行目 看護ハ看護ノ誤
- 廿二丁 拾壹行目 意ノ下見ノ字ヲ脱ス
- 三十丁 九行目 郡區町村ハ郡町村
- 全丁 拾壹行目 着手ハ着手ノ誤
- 四十六丁 拾行目 附與ハ附與ノ誤
- 四十八丁 乙第三十八号郡區町村ノ下畧ノ字ヲ脱ス
- 全丁 三行目 輪卒ハ輪卒ノ誤
- 四十九丁 九行目 注ハ法ノ誤
- 五十二丁 初行 盡シハ盡シノ誤
- 六十一丁 二行目 二町ノ下村ノ字ヲ脱ス
- 六十八丁 二行目 惣テノ下密ノ字ヲ脱ス
- 全丁 八行目 モノハモノトノ誤
- 八十二丁 三行目 元調ハ元請ノ誤

九十七丁 十二行目 「ニヨリ」以下十五字ハ衍
 百五十丁 二行目 旅行ハ施行ノ誤
 百六十三丁 初行 文部ハ文字ノ誤
 二百三十二丁 初行 自今ハ自分ノ誤
 二百三十七丁 九行目 京都ノ下府ノ字ヲ脱ス
 二百五十八丁 七行目 貨地ハ貸地ノ誤

明治十九年七月十七日出版届
 全 年九月 刊 行

〔定價 七拾五錢〕

京都府藏版

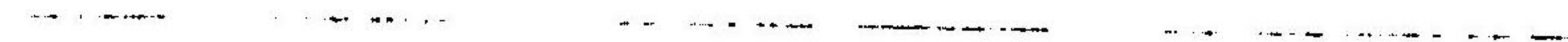
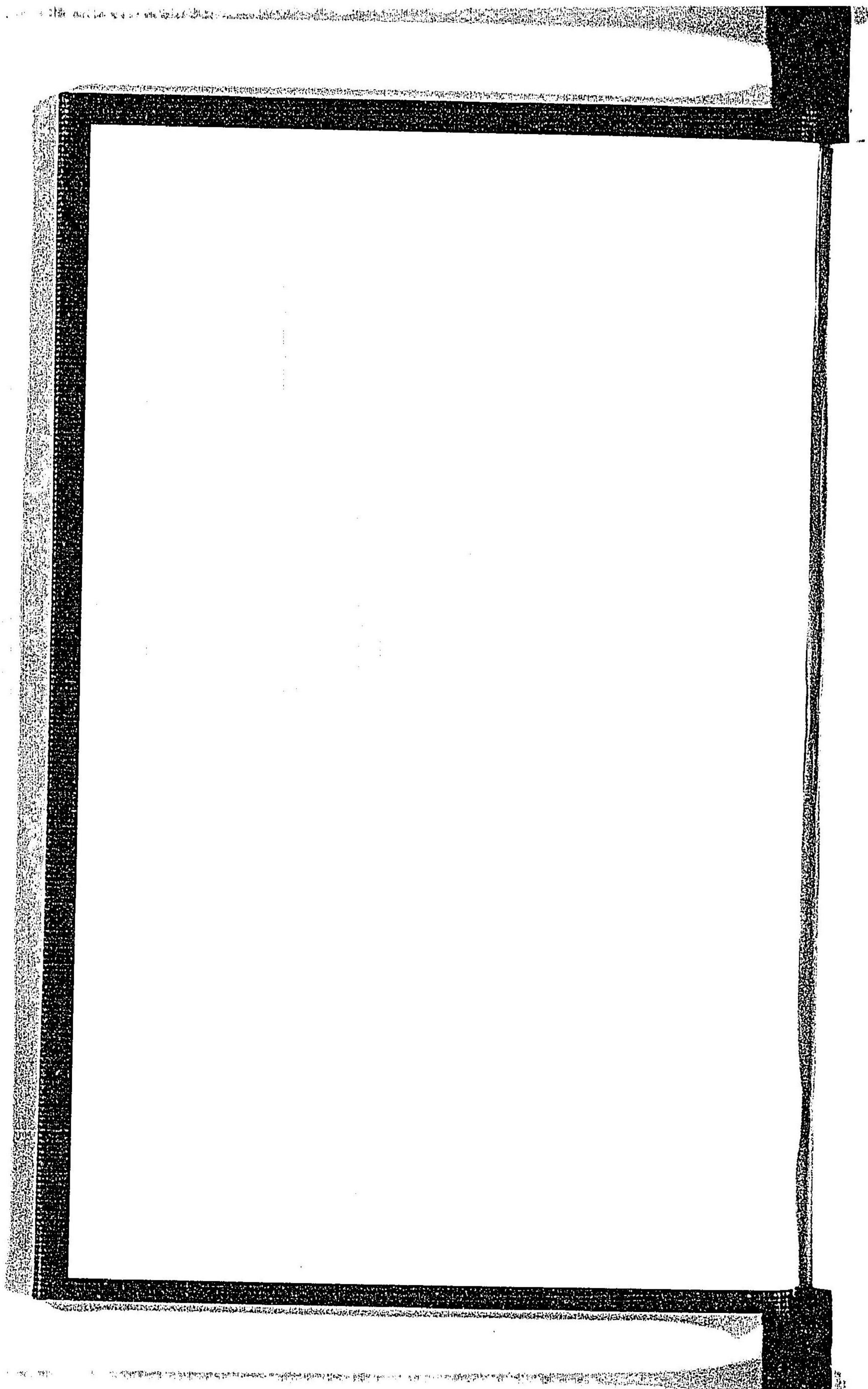
京都府整理課編纂

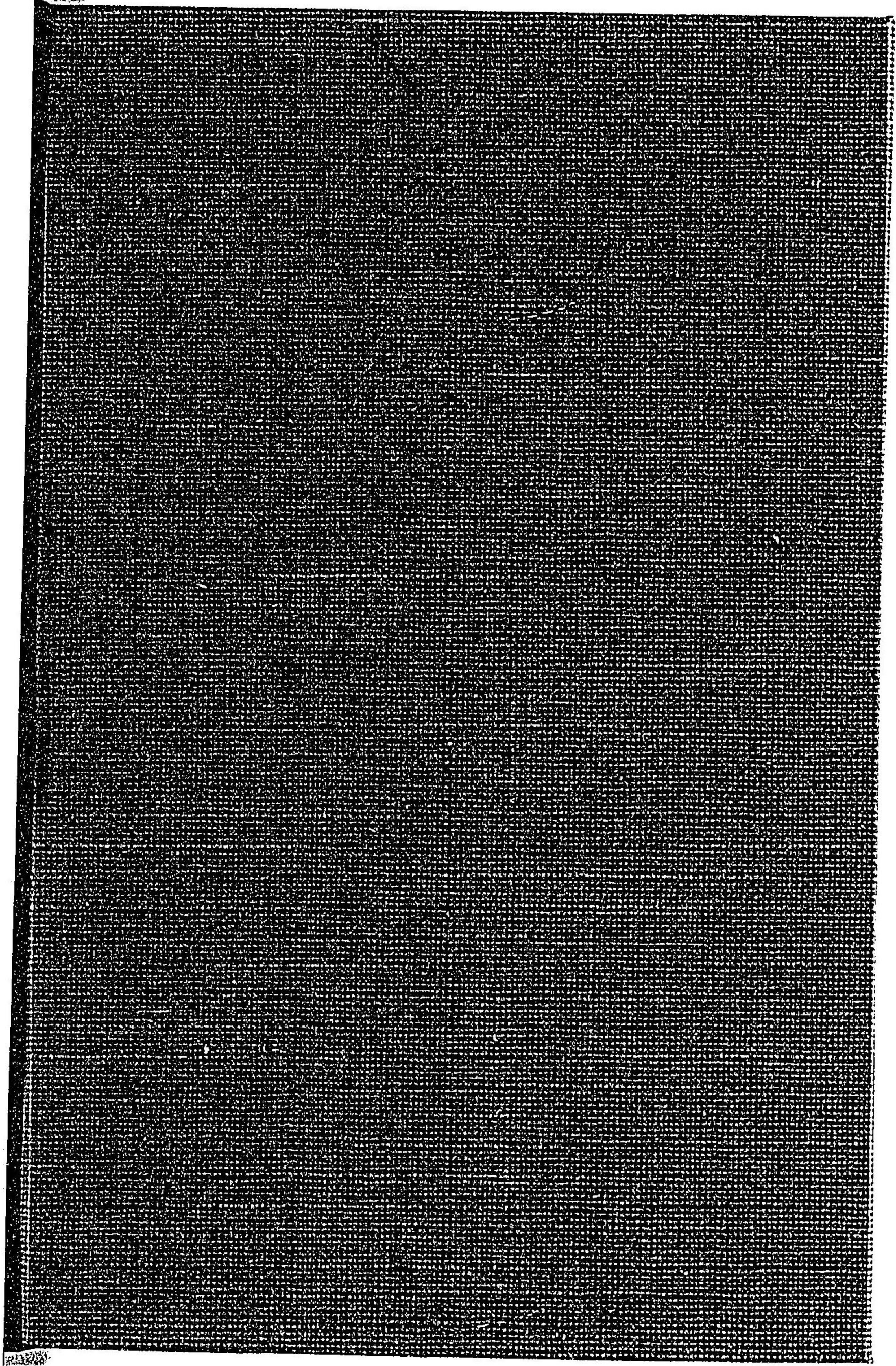
印刷兼發賣

點 林 堂

上京區第廿八組
 烏丸通三條北 塲之町
 三十三番戶

4772A-89





禁電子式複写

